

### 島根県農林水産部林業課木材振興室

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地 TEL.0852・22・5168 FAX.0852・26・2144  
e-mail ringyo@pref.shimane.lg.jp <http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/>

### しまね木造塾 (一般社団法人 島根県建築士会内)

〒690-0883 島根県松江市北田町35-3 建築会館内 TEL.0852・24・2620

Shimane Wood Style Ⅲ

しまね  
ウッドスタイルⅢ

島根県産木材を使った木造建築物



島根県  
しまね木造塾

# 木造建築の復権を目指して

一般社団法人 島根県建築士会

会長 足立 正智

昭和40年代頃までは、日本の山から木が伐り出され、それが経済の循環の中で流通するシステムが存在していました。山は人の生活の場でもありました。しかし、人間は山からだんだんと遠ざかり、森林は荒れ、木材流通も経路はすっかり断たれてしまいました。これらを復活していかなければ、日本の木を使い、「木造建築よもう一度」という意気込みも、掛け声倒れになりかねません。

日本の建築文化は一度ほとんど木造を見放してしまいました。木造は特別な場合と住宅の中で生きました。木の使い方も、住宅が主体なため小さな建物用の材が中心となり、工法も職人の手をあまり要せず、機械工具を使い、プレファブ的に部材化した木材を使うことが主流となっています。さらに、日本の人口は減り続け、住宅自体の需要も減少の一端を辿っています。つまり住宅だけ頑張っても木材の需要は増えにくいのです。したがって、その他の建築の木造化が進まない限り、木材需要は伸びないのです。そして、木造化には様々な問題があります。建物の大型化に対応するような木質構造技術がいまだ脆弱であること、建築士が木造建築の構造特例に胡坐をかき、木質構造をしっかりと理解していないこと。また、防火、耐火と言った建築基準法が要求する基準が、木造では確保できないケースもあります。そして、大量の内地産木材を、一定の品質を一度に供給という注文には応じにくい状況です。

木質構造建築を伸ばすためには、流通と供給の確保、品質の確保、法令のクリアー、新しい構造

の確立などが必要です。木質構造建築をこれからの建築として伸ばしていくためには、避けて通れないことと感じています。誰もが努力しなければならないのです。しかし、その中に大事なことを一つ忘れてはいけません。それは、伝統的工法の継承です。日本の木質構造建築は、先人が工夫し、構築してきた素晴らしい木造技術の中で成り立ってきました。新たな木質構造建築を見出すために、伝統的な技術を見捨てるのは避けられません。この技術の中には、木を知り尽くした先人の技術が詰まっています。機械や工具がそれらすべてにとって代わられるものではないのです。木の特性、木の性質、それらを生かした伝統的な技術工法をしっかりと理解し、それらの上に成り立ってこそ、新たな技術として採用されていくのです。伝統的な技術を継承することと、新たな木質構造技術を作り出すことは表裏一体のものと考えます。そのことを忘れず、焦らず、ゆっくり、確実に、それでもできるだけ急いで、新たな木質建築構造の技術とそれに携わる人間を多くしていきたいものです。

今回の木造建築コンクールでは、木造建築の良さを見出しながら、過去にとらわれない、新たな木造建築への挑戦をしている人たちの作品も多く見られます。良い木造建築を作ることが、木造建築の復権には欠かせないものだという事も、思い起こさせられました。木造建築を作る上でも勇気づけられるような、そんなコンクールでした。

## profile

足立 正智 あだち まさのり  
一般社団法人 島根県建築士会

1954年 安来市 松江北高等学校、芝浦工業大学建築工学科  
建築設計事務所 鉛屋工房 代表  
(一社)島根県建築士会 会長  
島根県立大学県立短期大学部 総合文化学科 非常勤講師



コンテスト趣旨

これまで、しまね木造塾の木材や木造に関する研修会や見学会に参加した受講者（以下、塾生）を対象に、その成果の発表の場として、また、木造建築に対するさらなる意識高揚の場として、作品を募集しました。

第一回コンテスト応募総数は20件。隠岐から益田までと県内全域から応募があり、いずれも「木」をふんだんに使い、住み手や使用者を満足させるに値する作品です。

11月30日開催の第6回しまね木造塾講習会において、塾生による投票と審査員による2段階の厳正な審査を行いました。

島根県内に概ね10年以内に建築されたもので、公共や民間の別、新築改修の別、用途は問わず、木構造や木質内装についての事例とし、優秀な作品に、大賞、島根県建築士会会長賞、優秀賞、特別賞の4賞を授与しました。

その他の応募作品には、図書館や新築住宅、古民家の改修などがあり、投票する塾生も大きく関心を示し、今後の県内の施設や住宅への県産材の利活用が大きく期待されるものです。

受賞作品講評

大賞 ★★★

松江市内の住宅地に新築された専用住宅は、古民家を意識した外観、真壁や顕し天井で木の温かみと存在感があり、畳の続き間を中心に小上がりや吹抜けと空間的にも変化に富みながら、落ち着いた佇まいが塾生、審査員の高い評価を得ました。

島根県建築士会会長賞 ★★

海士町の築110年以上の由緒ある家屋は、古文書調査による復元設計や構造補強など、今後県内の古民家利活用の大いに参考になる作品で、伝統的な左官仕上げや塗装仕上げなど、丁寧な計画と施工が高い評価となりました。

優秀賞 ★

出雲市内の住宅は、切妻屋根の外観の中に中庭や勾配天井、動線の工夫など空間的な仕掛けが随所にあり、外内部の洗練された木の使い方が受講者から大きく評価されました。

特別賞 ★

益田市の中学校技術棟で、高津川流域材を多く使用し、梁材の曲線と直線の流れが意匠的にも美しく、使用する生徒たちに木・木造の良さが伝わる作品です。

第1回 しまねウッドスタイル 作品 コンテスト 受賞作品



大賞

★★★

古志原の家

宇佐美建築設計室  
宇佐美 淳



島根建築士会 会長賞

★★

村上家家屋周辺設備工事

村上建築設計事務所  
村上 斉



優秀賞

★

Indoor terraceの家

原浩二建築設計事務所  
原 浩二



特別賞

★

益田市立 東陽中学校技術棟

有限会社 万設計  
福田 勝

しまね ウッドスタイル

作品 コンテスト

# 大賞

GRAND PRIX



受賞者

宇佐美建築設計室  
宇佐美 淳

島根県出雲市今市町25-12  
TEL.0853・23・0590

建築主 今岡 洋二

建設地  
島根県松江市古志原5丁目158-15

構造/木造2階建

用途/一戸建住宅

延床面積/140.16㎡

竣工/2012年(平成24年)

施工者/株式会社 御船組

ごく普通の新興住宅地に建つこの家は若夫婦と子供一人の家です。今時珍しく畳の居間とした、続き間のある家となっています。

畳の居間は掘り床式の造り付座テーブルになっています。客間が8帖、予備室が6帖、居間が8帖の計22帖は、間境にある仕切襖が全て袖壁に収納できるようになっており、一室としても使えます。

真中の予備室は、まだ子供が小さい時期は全員で寝る場所にもなっています。この畳空間3室は座った時の目線を意識し、廊下や台所より30cm上げています。

どっしりとした平家的な切妻大屋根空間の中に2階部分(寝室、子供室の2室)が収まっています。

全体的に古民家風としたデザインとなっています。

# 古志原の家



### ① 玄関ホールから階段、廊下をみる

全般的に古民家を意識した真壁造りとし、床は杉板・左官壁・天井構造体表し、杉板としています。

### ② 北側正面玄関

目隠し格子内側がポーチでその先に玄関戸があります。アプローチは御影石です。

### ③ 2階寝室

小屋裏表わし空間：左側障子は居間吹抜けにつながっています。右側は収納です。





庭側からガラス戸を引き込み、居間から客間方向をみる  
掘床式座テーブルとなっている居間です。左側に収納付テレビ台、右側が床が下がった台所空間となっています。



④ 玄関からホール及び客間をみる

ホールから客間へは、30cm床が上がっています。  
玄関床は豆砂利洗い出しです。

⑤ トイレ空間

御主人よりトイレを異空間としたいというご要望から、左官コテ塗壁でドーム天井となっています。カマクラのような包まれた不思議な感じですが、床は、一部置き玉砂利となっています。

しまね ウッドスタイル

作品 コンテスト

## 島根県建築士会 会長賞



受賞者

村上建築設計事務所  
村上 斉

島根県雲南市大東町新庄411-12  
TEL.0854-43-3272

建築主 海士町

建設地

島根県隠岐郡海士町海士地内

構造/木造2階建

用途/住宅(町指定文化財)

延床面積/350.35㎡

竣工/2013年(平成25年)

施工者/有限会社 北峯工務店

鎌倉時代、承久の乱にて隠岐中之島(海士町)に配流された後鳥羽上皇は18年の間島でお暮しになり崩御なされた。当時この地で勢力のあった村上家は上皇のお世話役をなされ、また明治天皇の思い召しにより第82代後鳥羽天皇火葬所として宮内庁で管理された後も、このお世話役を行う家柄である。

この御母屋は火災の後明治33年に建築された建物であり、このたび海士町にて観光の拠点、資料館として当時の姿を復元する形で整備したものである。

復元にあたり調査をしたところ、基礎の周囲は土台石敷き、内部は玉石の束立の構造であった。一部2階建ての母屋に平屋の湯殿棟が取り付いている。

建物にはかなり老朽化が進み現在の生活スタイルに一部改造されていたりしている。

京都造形芸術大学の古文書調査、時代考証など協同作業から今回の改修計画をたて復元設計を進め、構造補強については限界耐力計算による補強計画を実施して仕口ダンパーやコボットなどにより補強、根固め貫の追加や小屋組の補強も行っている。

仕上げは左官工事において小舞土壁、古代漆喰仕上げ、本聚楽塗、松煙入り土壁、深草漆喰三和土仕上げなどを採用。塗装工事には、弁柄・松煙・柿渋・茶粉などの顔料や染料、亜麻仁油・糠油・蜜蝋などの天然ワックスで木質部の色付けを行った。

母屋の他宝蔵庫・薬医門・堀や庭園整備も行っている。今後観光施設として、またNPOの研修の拠点として利用される。

# 村上家家屋周辺整備工事



### ① 母屋裏面

裏庭側は台所土間勝口があり、茶の間から納戸にかけて濡れ縁がある。昔は湯殿炭火風呂まで濡れ縁が続き、炭火を運ぶ動線として利用されていたようです。

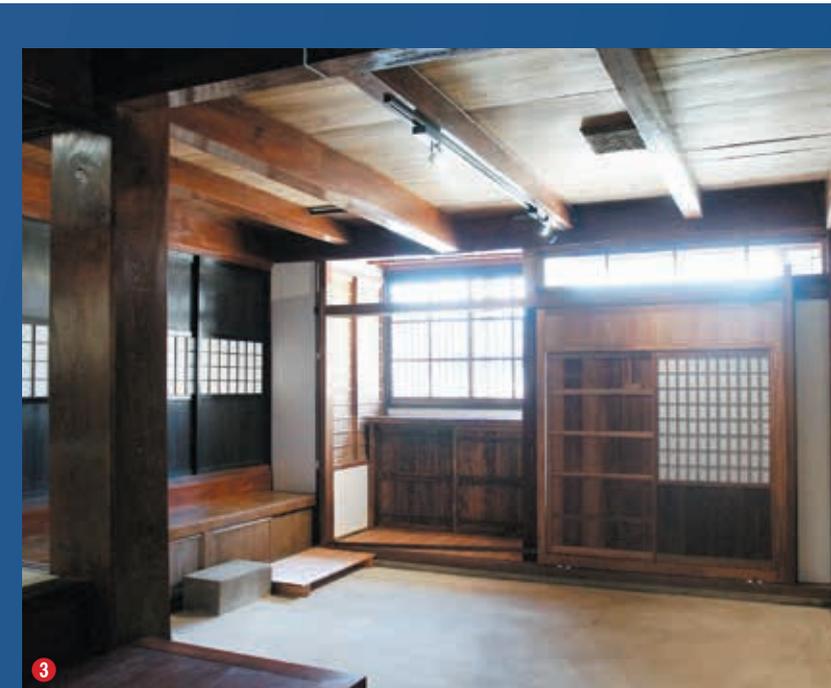
### ② 母屋側面縁側回りと湯殿

側面には母屋に続いて湯殿があり、床の間付の脱衣、炭火風呂、畳敷き便所、水屋を備えている。明治の完成当時の写真をもとに復元した。



母屋正面

破風壁に波に千鳥の彫刻があり、その下が玄関で、左に大戸口がある。玄関から湯殿にかけては回り縁となっている。2階には和室2間を有する。



③ 通用口内部

大戸口復元、土間深草漆喰三和土仕上げ・土壁本漆喰塗、木部は松煙・弁柄・柿渋・茶粉などの配合の古色塗の上天然ワックス塗。

④ 台所内部復元

壁は木舞下地松煙入り土壁塗・土間は深草漆喰三和土仕上げ・かまど等復元床板は隠岐産松古色塗仕上げ。

⑤⑥⑦ 高の間(上段の間・床の間回り)

皇太子御来家の際、使用された部屋で、高の間と名付けられこれまで開かずの間とされた。壁本聚楽塗・床回り本漆喰・襖は京唐紙大桐置き上げ紙張。



# 優秀賞



受賞者

原浩二建築設計事務所  
原 浩二

島根県出雲市塩冶町1065-4  
TEL. 0853・23・2023

建築主 天野 圭吾

建設地

島根県出雲市今市町南本町3767

構造/木造2階建

用途/一戸建住宅

延床面積/187.05㎡

竣工/2013年(平成25年)

施工者/ヒロシ株式会社



夕景/窓や屋根開口から光がもれる。プライバシーを守りながらも外部に対して拒絶的にならない開口。

## Indoor terraceの家

切妻屋根の単純なボリュームの中にいくつかの空間的しかけを入れ込んだ住宅です。

1. 外壁全体を米杉貼りとし、無機質になりがちな駐車場スペースにも植栽や家庭菜園スペース、ベンチを設けて周囲の景観や環境との関係をつくり出しています。
2. 「LDK+子供室」のボリュームと、「ヨガルーム+寝室」のボリュームを分け、その間を中庭 (Indoor terrace) でつないでいます。壁と屋根に囲まれた空間はかなり室内的ですが、自然の雨、風、音は豊かに流れ込み、植栽や適度な日陰が、ゆっくりとした時間をつくりだしています。
3. LDKとIndoor terraceをつらぬく米杉貼りのボリュームが室内外の一体感を強調するとともに、空間に回遊性や密度感あるいは奥行きを生みだしています。身体感覚に則したスケール感が、本能的な安心や居心地につながっています。
4. 2階の天井は勾配天井で空間のボリュームにめりはりをつけています。“穴ぐら”感が、3と同様に本能的な感覚にむすびついています。
5. 大きいけれどタイトで、小さいけれどつながりのある、そして単純なプランの中に複雑で、あえて長い動線がめぐらされた住宅です。(単純な)広さや、動線の長さ等、通常の常識をもう一度考え直した住宅です。

道をはさんだ川からIndoor terraceにまよいこんだ水鳥のさえずりを聴きながら、缶ビールの蓋を開ける時にちょっと幸せを感じられるような、そんな住宅です。

こんな外構空間が道行く人や、子供たちとのちょっとした声かけのきっかけにもなっているようです。



1



4



5



2



3

① 中庭 / 室内と室外の中庭。外壁と同じように米杉を多用している。適度な日陰と十分な通風を確保。2階の渡り廊下からの見下げ。

② 居間～中庭 / 内部と外部をまたがってつらぬく米杉貼りのボリューム。

③ ユーティリティ / ユーティリティスペースから中庭が見える。その先にさらに離れたヨガルームが見える。

④ 寝室 / 玄関から2階の渡り廊下を介してつながる寝室。おむすびのような断面ボリューム。

⑤ ファサード / 外壁全体に米杉を貼っている。中央部分の窓や屋根開口から「内部的な外部」の中庭が見える。道路沿いの駐車スペースにも植栽を配置。

# 特別賞



受賞者  
有限会社 万設計  
福田 勝

島根県益田市あけぼの本町4-3  
TEL. 0856・23・2460

建築主 益田市

建設地  
島根県益田市津田町740

構造/木造1階建

用途/中学校

延床面積/203.30㎡

竣工/2012年(平成24年)

施工者/ダイワエンジニアリング  
株式会社



単一木材組み架構が意匠になっている技術室。

## 益田市立 東陽中学校技術棟



この建物は中学校の技術(実習)棟で、耐震性が著しく低い鉄骨の既存建物を解体撤去し木造で改築をした。

学校の校舎で木造にする場合、一般的には洋小屋でまとめてしまえば簡単だったのかもしれないが、木造で建て替える目的と広い架構空間を確保する事により、そこで学ぶ生徒たちに木造の良さと木造でも少し違う感じの空間を提供したいと思ったのがこの建物である。

柱は2つの長方形断面の物を使い、梁も一般的な梁材を組み合わせる力の伝わり方を描いたようなものになっている。主架構は基本的に高津川流域材を使用している。

その木の構造自体が意匠になっており、しかもそれが整然と並んでいる形は思った以上に良かったと思う。

木造の架構を構造解析により可能性を広げることにより、木架構の発展的な計画も出来た。また木材そのものが持つ意匠性をより表現できたものとなった。



① 架構接合には金物が出ないようにし木架構を軽やかに見せる。

② 高津川流域材で組んだ木材架構と化粧野地板。

③ 構造材を一部意匠で表した外觀。



隠岐開発センター 図書館棟増築



法吉の家



片原 水辺の家

応募作品



南平台の家



広瀬の家



I 邸



H 邸



大芦の家



斐川の家

しまね木造塾は平成19年度に有志10名により立ち上げ、県産木材の活用についての勉強会や見学会、木造建築に特化した特記仕様書の作成などに携わってきました。

平成23年度からは「島根県民間木造建築促進事業」のソフト事業を担い、社団法人(現、一般社団法人)島根県建築士会の小委員会として活動を始めました。木造建築や木材に関する技術や知識を習得し、木造建築の設計技術力向上を目的として、研修・技術支援・事例集作成・見学会・県民へのPRなどを実施しています。参加者は、建築士会会員に留まらず、設計事務所や工務店勤務者、林業関係者、行政職員、建築関連の地場産業関係者のほか一般の方々、また近県からの参加もありました。

■ 塾登録者190名 ■ 受講参加者 延約3,500名

#### 研修 study&training

3年間の講座では、著名な建築家をはじめ、構道家、木材研究者、宮大工など国内外で活動する方や島根で活動しながら全国に発信を行っている方など42名の方々に講師を担当いただきました。

講座では、最新情報を画像とデータを交えて、“木”、“木造”の現状について、また木の特性、魅力、将来について様々な専門分野の立場で熱く、わかりやすく語っていただきました。

#### ■ 実施講座

平成23年度15講座 平成24年度12講座 平成25年度16講座

#### 技術支援 technical support

調査、計画、設計、施工、維持管理などを技術的に支援する目的で実施しました。既存建築物の測定技術の指導や中央の講習会への塾生派遣で、木造建築物の構造・防火などについても学びました。

#### 事例集作成 shimane wood style

「島根県民間木造建築促進事業」のハード事業の作品や県内の優れた木造建築物の事例、木材関連情報を“しまねウッドスタイル”として冊子にまとめ、塾生はじめ建築・木材関係者や一般の方に配布。

25年度は集大成として塾生から作品を募り、“しまねウッドスタイル作品コンテスト”を行い、同冊子に掲載しました。

#### 見学会 experience

県内外の先進地視察として、「島根県民間木造建築促進事業」の支援を受けた施設、県央の森林、また岐阜県立森林文化アカデミー、香川・高知両県の建築物・施設などへ行ってきました。

講座の講師の作品にも直に触れることもでき、新しい“木”の使い方、据え方、木の持つ存在感や周囲に馴染むスケールとその魅力について貴重な体感を受けました。

#### 一般県民へのPR public relations

新聞媒体などを通じて、「島根県民間木造建築促進事業」についての案内や県民施設の見学会の案内も行い、一般の方々から多く参加をいただきました。



木造塾講習会風景。



木造塾講習会風景。



木造塾審査風景。



待合室。

## たかせ内科

### 概要

建設地	島根県益田市中島町イ481-1
建築主	高瀬 裕史
構造	木造2階建
用途	診療所
建築面積	265.10㎡
延床面積	282.62㎡
建築費	70,350,000円
設計者	ディ・ピー・エス建築設計事務所
施工者	大畑建設 株式会社
竣工	平成25年3月18日
活用事業	平成24年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 54.31㎡ (全体の約73%)



主要道路からの外観。

## レトロ感漂う 古き良き“町の診療所”

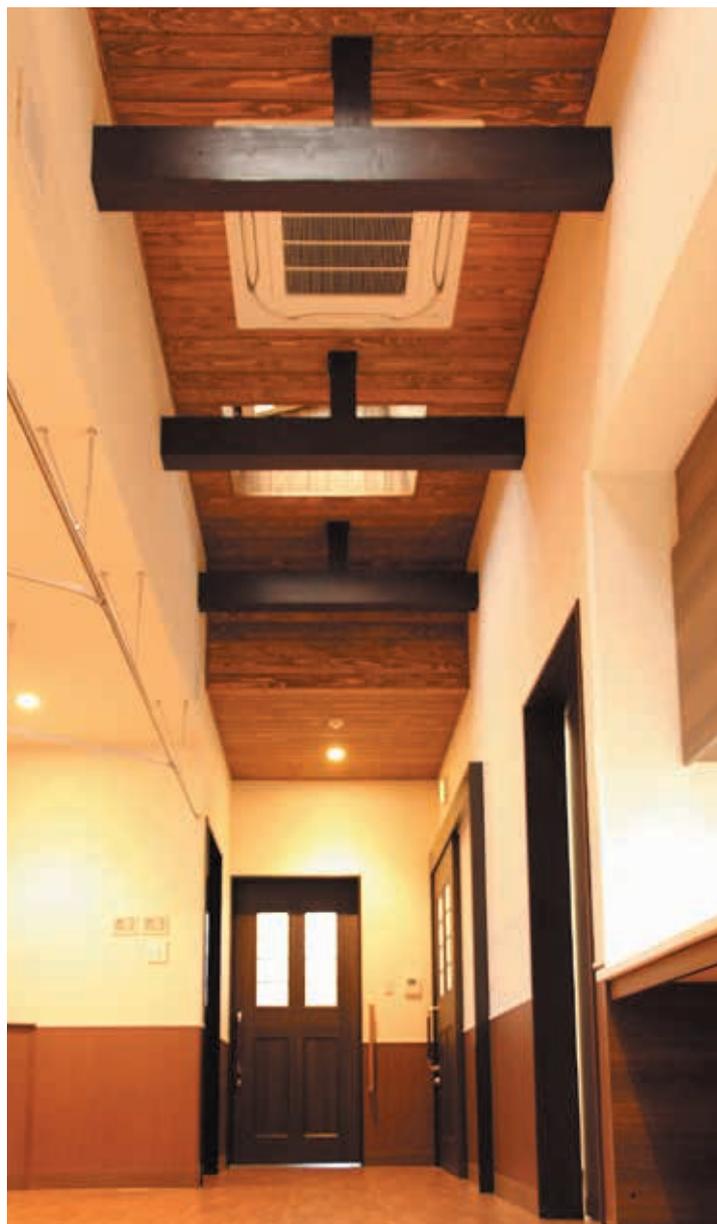
診療所は市内中心部にほど近い区画整理エリアに建設され、新しい街区として動き始め、周辺には住宅等も集まりだしています。10年、20年後の成熟した街並み景観に違和感がない建物である様にシンプルな外観と意匠をプランニングしました。

外壁腰壁には杉板張りを採用、2階部分の屋根は石州瓦葺としています。また、前面道路からの目隠しとして配置した黒塀には石州瓦をアクセントに埋め込んだデザインを施しました。

診療所内部の仕上げは患者様へのメンタルに考慮した素材・色合いでまとめ上げています。柔らかな暖か味のある木質化の腰壁、梁現しの大きな吹抜けの待合室、そしてそこに置かれた薪ストーブのゆらぐ炎…。外来の患者様をやさしく包み込む落ち着いた空間。

そんなレトロな雰囲気古き良き時代の“町の診療所”をイメージしています。

- 外装の杉板張りは、腰壁程度の高さに抑えることでメンテナンスが容易である。
- 診療所の待合スペースには、杖・車椅子等の接触から壁を保護するために腰壁を全面木質化として、塗料にも自然塗料を採用した。
- 薪ストーブ周囲の腰壁の一部には、準不燃材加工された県産木材を使用した。



右：玄関ホールの吹抜け。

左：点滴室。



歩道から入りやすく演出されている。1階中央が玄関で、その奥がカフェになっている。

## 出雲杵築屋

### 概要

建設地	島根県出雲市大社町杵築南772
建築主	株式会社 出雲まちづくり公社
構造	木造2階建
用途	複合テナント
建築面積	121.70㎡
延床面積	237.76㎡
建築費	35,000,000円
設計者	内藤建設工業 株式会社
施工者	内藤建設工業 株式会社
竣工	平成25年4月19日
活用事業	平成24年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 21.54㎡ (全体の約66%)



2階にあるレトロな雰囲気の蕎麦屋(左)と、店内に構造体をあらわしためのう勾玉専門店(右)。

## 出雲大社神門通りの 複合ショップ

出雲大社神門通り沿いの勢溜り近くに建設されたこの複合テナント施設は、大社さんの活性化に繋がればとの思いから計画されました。

出雲杵築屋には、めのう勾玉を扱う2店、カフェ2店、出雲蕎麦の店、そして出雲ブランドのタオルショップの計6店舗が入店しています。神門通りに面した間口は狭く、奥行きが22mと細長い敷地です。観光客の街歩きで自然に店内へと流れる様に、敷地南側に専用の屋外通路が設けられ、奥行きの中央付近から1階テナントへの入口、2階テナントへの階段という導入口が配置されています。また、人の動きが上下に移動することで、滞留時間を長く出来る効果も計算されています。

外観は、大社の街の白と黒の景観にマッチした白壁と黒色系の杉板張りに格子窓。軒裏も木部現しの黒色系で塗装、石州銀黒瓦の切妻屋根が大社の街に溶け込んでいます。また各テナントも同様に白黒を意識した色調に統一され、神門通りの中心的な観光施設となっています。

構造は、地域経済振興の一環となる様に県産杉を主に使用した在来工法の和小屋組で建てられ、店舗内の床・階段なども土足仕様の木質で仕上げられています。木質の温かみのあるやさしく柔らかな雰囲気空間は、観光客にも好評です。

先頃、大社神門通りは歩行者優先街路として路面を石張りに美装化され、ぶらり歩きの観光客で賑わいを見せています。歴史ある島根の観光地には木造建築がよく似合います。



右：桁行き22mの南外観。

左：1階のめのう勾玉専門店。



杉板貼りのアプローチ。

chu-ka chu-bou 梵天



## chu-ka chu-bou 梵天



木の温もりのある空間。

### 地元の木材で中華レストラン

江津市内の江津道路入口付近の郊外型中華レストランは、平成25年12月にオープンしました。

杉板貼りの外観は、外壁端部分の緩やかな傾斜と屋根の勾配のバランスが建物全体の一体感を生み出し、周囲の景観にも馴染んだ意匠デザインです。

江津は石州瓦の産地である事から、店舗の周囲にはリサイクルされた粉砕赤瓦のチップを敷き詰め、地域の瓦屋根によく馴染んでいます。

店内の客席は無垢材の柱と梁の架構で仕上げ、洗面廻りは地元の杉材を使い、落ち着いた木の食事空間に仕上げられています。

地元の木材をうまく生かした良い一例です。



粉砕赤瓦の犬走り。



露出した柱・梁空間の食堂。

#### 概要

建設地	島根県江津市嘉久志町1681-2
建築主	米原 周吾
構造	木造1階建
用途	中華レストラン
建築面積	115.50㎡
延床面積	113.70㎡
建築費	15,641,850円
設計者	大野康宏建築設計
施工者	有限会社 柏久工務店
竣工	平成25年12月3日
活用事業	平成25年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 15.35㎡ (全体の約99%)



庭園と一体化した玄関アプローチ。



## 小さなお宿 泉弘坊



木の香のする玄関。

### 概要

建設地	島根県大田市川合町川合1192
建築主	細川 隆弘
構造	木造1階建
用途	旅館
建築面積	196.00㎡
延床面積	191.00㎡
建築費	38,220,000円
設計者	杉本建築設計事務所
施工者	清水工務店
竣工	平成25年11月25日
活用事業	平成25年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 47.78㎡ (全体の約100%)

## 木の香に癒される湯治場の宿

大田市三瓶川沿いの長閑な地に、モチの古木に寄り添うよう現れる湯治場の小さなお宿。

ここは江戸中期、諸国霊場行脚する僧「泉弘法」によって発見された霊泉の湯治場として古くから知られ、宿の名前の由来にもなっています。元々あったモチの古木はそのまま残し、訪れる人々の目印にもなっています。

外観は、数寄屋風のアプローチに広い間口の玄関。内部は、地元の杉板が廊下・洗面廻りの壁・建具に使用され、木の香と杉の柔らかな質感が湯治場らしい落ち着いた空間を演出しています。のんびり温泉に浸って、美味しい食事も頂いて、身も心も癒してみたいかがでしょう。



手づくりの表札。



長スパンを確保された大ホール。

## 邑南町山村開発センター (田所公民館)



外観からは構造が特定できない。

### 概要

建設地	島根県邑智郡邑南町下田所282-1
建築主	邑南町 町長 石橋 良治
構造	木造2階建
用途	集会所
建築面積	1,560.00㎡
延床面積	1,523.96㎡
建築費	381,053,400円
設計者	株式会社 中林建築設計事務所
施工者	今井産業・河野建材特別共同企業体
竣工	平成25年9月30日

※邑南町産木材の使用 約88.80%



## 県内初の木造耐火建築物

以前のRC造3階建ての施設は耐震強度不足であったため、地元からの要望でもあった木造平屋建て(調整室のみ2階)に建て替えられました。用途・規模から耐火性能が要求された、県内初の木造耐火建築物です。構造躯体は強化石膏ボードで覆われ、構造木部が現しとなる部分はありません。しかし、一部内装仕上げに木質材料を使用することで、木造がイメージ出来るように配慮されています。

長スパンを確保するための「大断面集成材のラーメン構造」の採用など、どこまで木造にこだわるべきか賛否はあるのですが、木造の可能性を広げた建築物です。



上：上棟時に行われた見学会。

下：化粧木材を見せた町民ホール。



杉板貼りをバランスよく配した外観。

## ディケアはまもと

### 概要

建設地	島根県雲南市大東町大東2416-5
建築主	医療法人社団 蛭雪会 理事長 濱本 直治
構造	木造2階建
用途	ディケア、ディサービス
建築面積	191.40㎡
延床面積	277.00㎡
設計者	株式会社 豊洋
施工者	株式会社 豊洋
竣工	平成25年8月29日
活用事業	平成24年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 32.88㎡ (全体の約77%)



杉化粧丸太小屋組のある内観。

## 地域医療とディケア施設 との一体的整備

雲南市大東町県道24号線沿い阿用川のおおぎ橋の東端おおぎ公園に面し、地域医療の拠点として診療所とディケア施設を併合して整備なされた建築です。

南向けの大屋根には太陽光発電パネルを全面に、外壁には杉壁をバランスよく配し自然エネルギー利用、地域木材利用などを通し循環型建築計画をなされています。

内部リハビリ室は杉化粧丸太による小屋組の表しの内装や県内産杉の腰板など、温かみのある仕上げとなっています。

無垢材の特徴として温かみや柔らかさなど表現できる一方、品質管理が非常に難しいところです。

県産木材利用促進にあっては、ストックと品質管理に関して一層の努力も求められるところです。

